

●東京石油

3日の東京原油は続伸。終値は、期先7月限が前日比220円高の5万1670円で取引を終えた。日中立ち会いは、ニューヨーク原油(WTI)時間外取引の底堅さを受け、売方の手じまいなどが先行、堅調に推移した。石油製品は、東京原油高になびき堅調。終値は、東京ガソリンは期先8月限が同120円高の6万5610円、東京灯油は期先8月限が同390円高の6万2640円。東京軽油終値は、期先8月限が同変わらずの6万5600円。

●東京貴金属

3日の東京金・白金とも上伸している。金期先12月限は前日比32円高の4322円、白金期先12月限は同34円高の4023円。東京金は続伸し、夜間取引で4320円を示現している。NY金の強調地合いを映した動きでもある。東京日中取引では4320円を示現するには至らず、4310円台での取引が中心だった。円相場もドルベースの金も今晚発表される米雇用統計を意識してこう着しており、一段と仕掛けは見送られることとなった。米雇用統計での非農業部門の就業者数に関心が集まるものの、前月の20万人増からは大幅に下回るとみられている。ドルベースの金市場でも久しぶりにこの米雇用統計に関心を寄せており、日本時間22時半に発表された後に東京金の値動きも大きくなりそうだ。さて、東京金は14時台に入って買い直され、15時台には4310円台後半に水準を切り上げ、4320円を目指す展開となった。NY金が1760ドル台を回復する動きをみせたことが好材料ながら、米雇用統計を控えて新規には仕掛けにくいタイミングでもある。引け間際にはNY金の堅調地合いを受けて東京金は4320円台に乗せ、高値更新の動きをみせていた。今晚のNY金は米雇用統計やギリシャの債務問題次第。前日の1764.0ドル示現で、昨年12月下旬の急落幅の倍返ししの1765.6ドル、昨年12月初旬の1769.7ドルに近づいている。強気の米雇用統計となってもこの水準で達成感から売られる可能性もある。さて、昨年後半の相場パターンを再現し、連日、高値も安値も切り上げる動きをみせている。今後、警戒すべきは前日の安値を更新したタイミングで、昨年は急落していたが、今年はそのパターンが一時途絶えた。前日の安値である1743.3ドルを維持するかどうかはバロメーターにしたい。前日はギリシャ交渉が困難との指摘からこの水準まで急落しており、欧州時間帯では下げやすいタイミングともいえる。一時的な調整はあるだろうが、長期的な上昇トレンドは維持されるだろう。

●東京穀物

3日の東京一般大豆は期近安、期先高とまちまち。日中立ち会いは、シカゴ相場が上伸した流れを引き継ぎ、買い戻しが先行して始まった。その後は低調な取引の中、2月当限中心に整理売りに押され、期近はマイナス圏に沈んだ。終値は、期先12月限が前日比230円高の3万9320円。東京Non-GMO大豆終値は、4月限が同2000円高の3万6000円。東京とうもろこしはシカゴ高を受けて反発。終値は、期先1月限が同30円高の2万3080円。

<この情報は、投資勧誘を目的として作成されたものではなく、あくまで情報提供を目的としたものであります。情報に関しましては、万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身で行っていただきますよう、お願い致します。>